

宮崎女子短期大学における保育実習 に関する調査研究 (1)

—保育所を除く児童福祉施設で実施される—

大坪 邦資・濱田 芳子・佐々木昌代

Survey on Miyazaki Women's Junior College Interns in All Child Welfare Institutions except Day Care Centers

Kunisuke OTSUBO · Yoshiko HAMADA · Masayo SASAKI

I. はじめに

これまでの実習に関する調査研究の継続の中で、必要を認めながら、改善を見送ってきた問題点が二つあった。一つは、学生主体の実習後指導の充実である。もう一つは、保育所を除く児童福祉施設で実施される保育実習（以下、保育所で実施される保育実習と区別して、施設実習と略称する）についての総括的な点検・評価である。

この実習に関する調査研究は、保育科の実習指導担当者として、学生が意欲を持って実習を体験し十分な達成感や満足感を得ることができるようにとの願いから、平成7年度より開始した。アンケート調査による学生の自己評価を取り入れ、どのような実習環境を整えていくことができるか、整えていくべきかを求めて検証をすすめてきた。その過程で、保育所実習や幼稚園実習に対しては、保育科独自の実習オリエンテーションを実施するなど、実習園決定に関わる手続きや基準を見直すとともに、僅かずつではあるが、確実に実習指導の改善を進捗させることができたと考えている。

さらに、アンケート調査を重ねるにつれて、蓄積された結果、すなわち、学生の実習に対する多様な思いや素直な学びは、実習指導改善の視点とするだけでなく、学生が相互に共有化すべき豊かな内容であることを痛感させられた。このことは、本年度より学生指導の充実を企図して全学的に導入されたガイダンス・アワーによって、実習指導の時間とクラス担任をはじめとする教員の協力体制が確保されたことから、実習後指導の一環として学生が互いに実習における思いや学びを伝え合い、交流する場を設定することができた。あらためて、実習前指導と併せて、結果について点検・評価をしなければならないが、ガイダンス・ノートに記述された学生の感想や具体的指導に当たったクラス担任の概評をみる限り、予想以上に好評であった。

このように、保育所実習や幼稚園実習に関しては、改善の歩みをすすめることができていると認められるものの、実習期間が比較的短期間で、実習手続きや実習形態が異なる施設実習に関しては、アンケート調査による学生の自己評価を取り入れた検討を十分には行ってこなかった。言うまでもなく、実習指導担当者に直接寄せられる学生の声や、全ての実習を終えた後に実施している実習全

般に関するアンケート調査の結果等々から、施設実習についても若干の改善の視点は得ることができた。それらは、ガイダンス・アワーで確保された時間を活用して、本年度より、実習前指導として外部講師に知的障害児施設の主任クラスの職員（保育科卒業生）を招聘するとともに、関連する専門教科担当教員による「児童福祉施設に関する講義」を設けることなどに繋がった。

そこで、本調査研究では、ガイダンス・アワー導入による施設実習前指導について検証するとともに、学生の施設実習に対する思いや学びをあらためて受けとめることを意図して、施設実習に関するアンケート調査を実施し、点検・評価を行った。

Ⅱ. 目的

学生の施設実習に対する自己評価について、次の(1)～(4)の視点から分析・検討し、実習指導の点検・評価を行うとともに、改善の視点を明らかにする。

- (1) 実習施設の選択、決定に至る実習手続きについて
- (2) 実習前指導、実習施設との事前打ち合わせを含めた実習に向けた事前学習・準備について
- (3) 実習に対する目標設定とその具体化について
- (4) 施設実習の意味について

Ⅲ. 方法

平成12年7月～8月に実施された施設実習を履修した平成11年度入学の保育科学生193名に対して、後期オリエンテーションクラス別ガイダンス・アワーにおいてアンケート調査を実施した。182名（回収率は94.3%）から回答を得た。

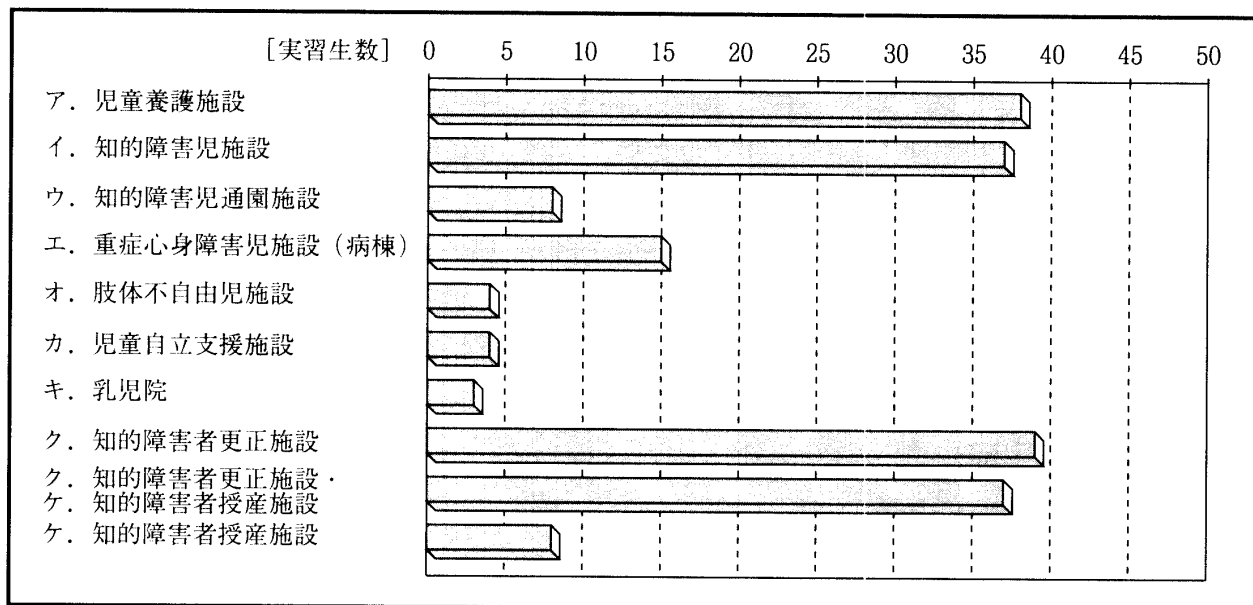
なお、実際の実習配当は表1、図1の通りである。

表1. 実習配当

施設の種類	施設名	通勤/宿泊	実習生数	班数	小計
ア. 児童養護施設	青島学園	宿泊	4	2	38
	石井記念友愛園	宿泊	2	1	
	石井記念有隣園	宿泊	2	1	
	カリタスの園竹の寮	宿泊	6	2	
	金鈴学園	宿泊	4	2	
	さくら学園	宿泊	4	2	
	みどり学園	宿泊	14	4	
	宮崎民生館	宿泊	2	1	
イ. 知的障害児施設	愛育学園	宿泊	1	1	
	あかつき学園	通勤	1	1	
	高千穂学園	宿泊	6	2	
	ひかり学園	宿泊	9	3	
	県立ひまわり学園	宿泊	12	4	

	県立つよし会つよし学園	宿 泊	8	3	37
ウ. 知的障害児通園施設	都北学園	通 勤	6	2	8
	わかば園	通 園	2	1	
エ. 重症心身障害児施設（病棟）	北九州市立総合療育センター	通 勤	1	1	15
	国立療養所宮崎病院	宿 泊	14	2	
オ. 肢体不自由児施設	県立こども療育センター	通 勤	4	1	4
カ. 児童自立支援施設	県立みやざき学園	宿 泊	4	1	4
キ. 乳児院	カリタスの園つばみの寮	通 勤	3	3	3
ク. 知的障害者更正施設	ありの実園	通 勤	9	3	39
	うからの里	通 勤	3	2	
	エデンの園	通 勤	4	2	
	さつき園	宿 泊	8	3	
	白浜学園	宿 泊	1	1	
	つよし会つよし寮	宿 泊	4	1	
	はまゆう園	宿 泊	6	2	
	みどり園	宿 泊	2	1	
	やまびこの里	通 勤	2	1	
ク. 知的障害者更正施設・ケ知的障害者授産施設	向陽の里	通勤・宿泊	37	3	37
ケ. 知的障害者授産施設	あすなろの里	通 勤	8	2	8
総 計			193	61	

図 1. 実習配当



IV. 結果

表 2. 実習を希望していた施設

実習希望施設	回答数
特定の施設を希望していた	64
希望していた施設の種類があった	81
特に希望していた施設はなかった	60
無回答	8

図 2-①. 特定の施設を希望していた

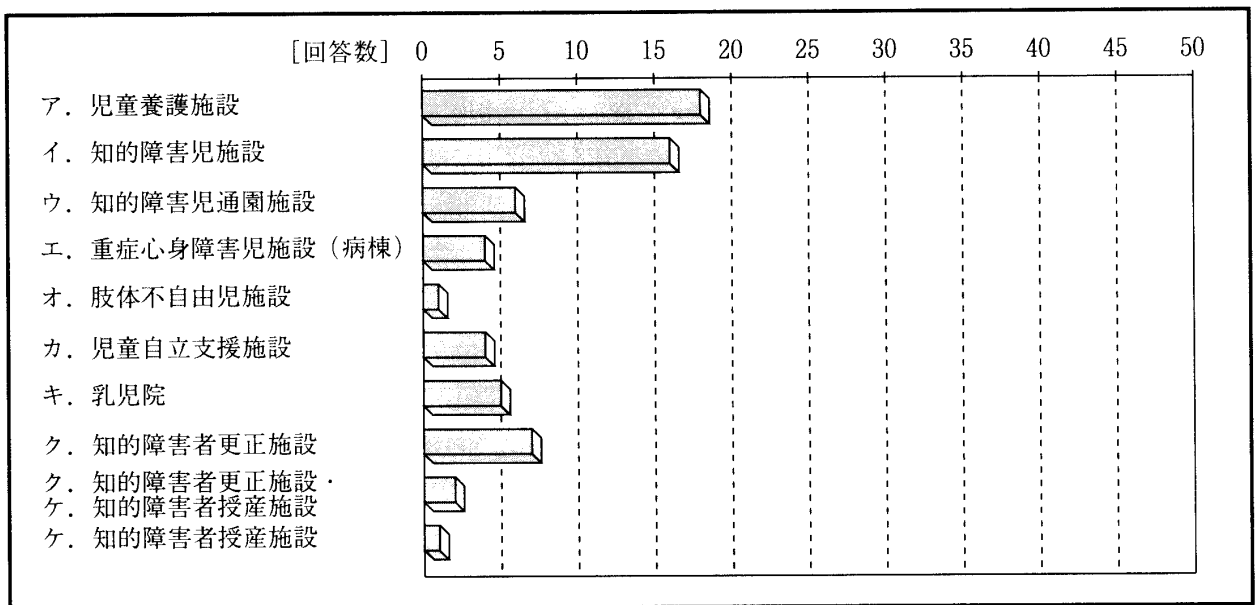
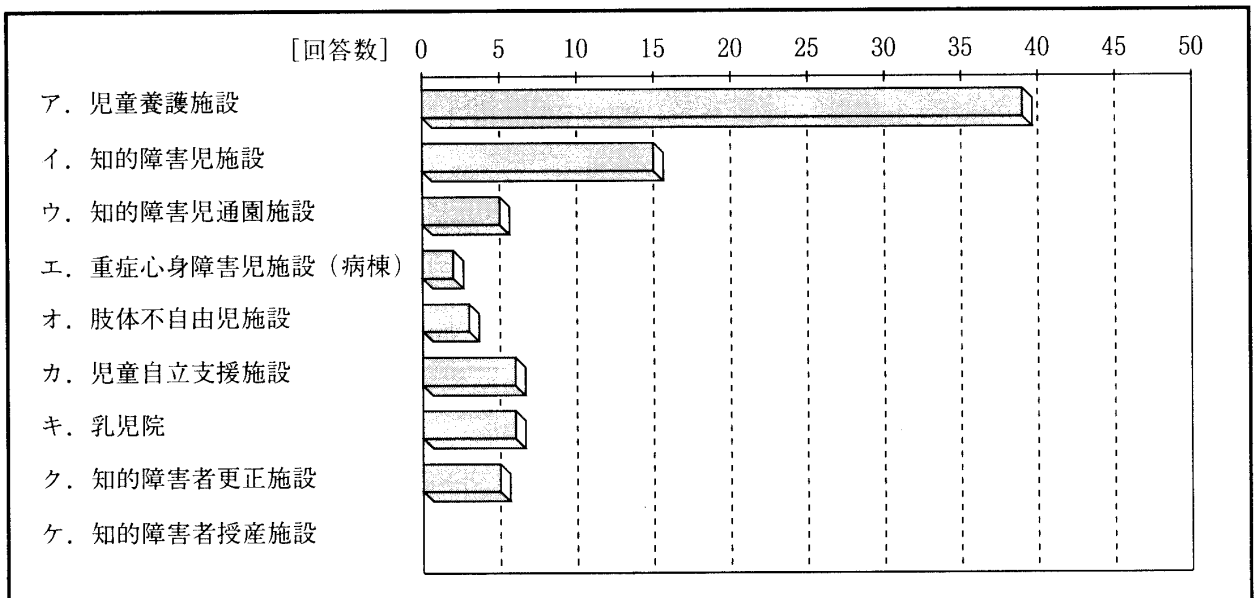


図 2-②. 希望していた施設の種類があった



具体的記述－最も実習したいと希望する理由

＜児童養護施設＞ 41

- | | |
|------------------------|----|
| • どのようなところか興味・関心があったから | 16 |
| • 子どもの生活，気持ちを知りたかったから | 7 |
| • 子どものいる施設に行きたかったから | 5 |
| • 保育士の役割，援助を知りたかったから | 3 |
| • 障害児（者）に自信がなかったから | 3 |
| • 就職希望だから | 2 |
| • 未経験だから | 2 |
| • 親しみがあるから，よく知っているから | 2 |
| • 楽しいと聞いたから | 1 |

＜知的障害児施設＞ 15

- | | |
|--------------------------------|---|
| • どのようなところか興味・関心があったから | 3 |
| • 子どものいる施設に行きたかったから | 3 |
| • ボランティアなどで行ったことがあるから | 2 |
| • 「障害児保育」を学んだので，生かそうと思ったから | 2 |
| • 保育園などで，健常児との統合保育の勉強になると考えたから | 2 |
| • 親子の関わりを見たかったから | 1 |
| • 障害児のいるところがよかったから | 1 |
| • 友人から話を聞いて行きたかったから | 1 |

＜知的障害児通園施設＞ 5

- | | |
|--------------------------------|---|
| • 子どものいる施設に行きたかったから | 2 |
| • 保育所の子どもたち，健常児との違いを知りたかったから | 2 |
| • 保育園などで，健常児との統合保育の勉強になると考えたから | 1 |

＜重症心身障害児施設（病棟）＞ 4

- | | |
|------------------------------------|---|
| • 有名で，周囲から話を聞いて行きたかったから | 1 |
| • 宮崎県に2つしかないから | 1 |
| • 日頃機会がなく，是非関わりたかったから | 1 |
| • 最も障害の重い施設に行けば，他の障害児にも対応できると思ったから | 1 |

＜肢体不自由児施設＞ 2

- | | |
|--------------------------------------|---|
| • 高校で看護体験に行ったので，今度は保育士としての仕事が見たかったから | 1 |
| • 保育園などで，健常児との統合保育の勉強になると考えたから | 1 |

＜児童自立支援施設＞ 4

- 保育士になりたい自分が最も見たい施設だったから 1
- どのようなところか興味・関心があったから 1
- 子どもの生活を知りたかったから 1
- 宮崎県に1つしかないから 1

＜乳児院＞ 8

- 乳児（低年齢児）と関わって、保育、援助を学びたかったから 5
- 子どものいる施設に行きたかったから 1
- 先輩から話を聞いて 1
- 行ったことがあるから 1

＜知的障害者更正施設・知的障害者授産施設＞ 6

- 障害者と関わりたかったから、障害者の援助を知りたかったから 3
- 先輩にすすめられたから、環境がよいといろいろな方から聞いたから 2
- 保育園などで、健常児との統合保育の勉強になると考えたから 1

＜特に希望する施設はなかった＞ 10

- 早く実習先を決めたかったから 3
- どこでも勉強になるから、いろんな子どもと接したかったからこの施設というのはなかった 3
- あまり知らなかったから、興味がなかったから 2
- 知的障害者と関わり、援助を学びたかったから 1
- 近いところが希望だったから 1

＜実習地、実習形態等による希望＞ 23

- 自宅や寮から近いから、地元だから、市内だから 15
- 自宅や寮から近く、通勤だから 4
- 宿泊だから 3
- 地元にないから 1
- 実習期間がよかった 1

表3. 実習施設は実習願提出時の希望先ですか

実習願の希望	回答数（割合）
第1希望の施設	121（66.5%）
第2希望の施設	13（7.1%）
第3希望の施設	4（2.2%）
希望しない施設	40（22.0%）
覚えていない	4（2.2%）

表4. 実習願提出時の希望先別自己評価

自己評価	第1～3希望の施設	希望しない施設
十分	20 (14.5%)	5 (12.5%)
ほぼ十分	83 (60.1%)	28 (70.0%)
どちらともいえない	25 (18.1%)	5 (12.5%)
やや不十分	4 (2.9%)	2 (5.0%)
まったく不十分	2 (1.5%)	0 (0.0%)
無回答	4 (2.9%)	0 (0.0%)

図3. 事前の打ち合わせ（あいさつ）の班別実施状況

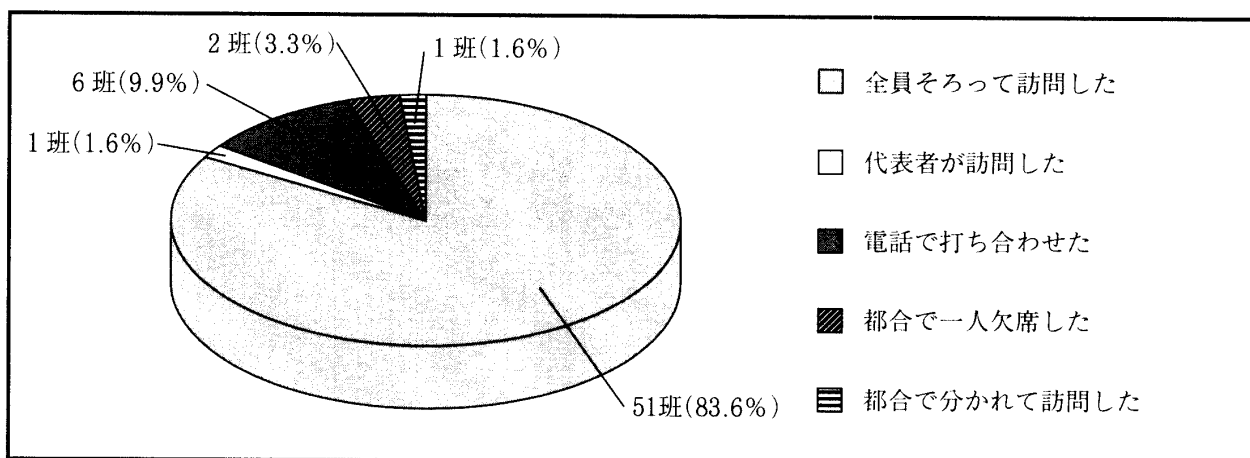


表5. 目標を持つてのぞんだか

目 標	回答数 (割合)
明確な目標を持つてのぞんだ	173 (97.7%)
明確な目標を持つてのぞまなかった	4 (2.3%)
無回答	0 (0.0%)

表6. 事前の打ち合わせ（あいさつ）

打ち合わせ	実習施設数*	班 数	実習生数
全員そろって訪問した	30	51	159
代表者が訪問した	1	1	6
電話で打ち合わせた	3	6	19
都合で一人欠席した	1	2	6
都合で分かれて訪問した	1	1	3
計	32	61	193

*施設によって、班ごとの打ち合わせ状況が異なるところがある

具体的記述－目標

<学ぶ・理解する・知る> 101

- 入所児（者）との関わり方，援助について学ぶ 39
 - 関わり方，援助について学ぶ 18
 - 一人ひとりにあった，個々に対応した関わり方，援助について学ぶ 7
 - 障害を把握して，健常児との違いを知って，関わり方，援助について学ぶ 6
 - これまでに学んだ知識，援助を生かす，再確認する 5
 - 知的障害者，重症心身障害児との関わり方，援助について学ぶ 3
- 施設について理解する 31
 - 施設の生活，一日の流れ，一日のリズムを知る 14
 - 施設がどのようなところか，どういうことをするのか知る 11
 - 施設の目標，方針を知る 6
- 入所児（者）を理解する 27
 - 入所児（者）の興味・関心，考えていること，望んでいることを受けとめる 13
 - 自閉症児，重症心身障害児の障害について理解する 9
 - 入所児（者）と関わって，理解する 3
 - 障害者に対する不安をなくす 2
- 施設職員の仕事内容，保育士の役割を知る 4

<入所児（者）と関わる・援助する> 85

- 多くの入所児（者）と関わる，たくさん関わる，積極的に関わる 54
- 入所児（者）の立場に立って，気持ちを考えて，一人ひとりに合った関わり方や援助ができるようにする 15
- 施設の生活，一日の流れ，障害を把握して，関わる 13
- 名前を覚える 3

<心掛ける・気を付ける> 45

- 積極的に取り組む，できることは何でも吸収する 21
- 基本的マナー，ルールを守る 9
- 笑顔で明るくを心掛け，楽しく実習する 7
- 施設の流れを早く理解して動く 3
- 責任を持って，考えながら行動する 3
- 入所児に怪我をさせない 1
- 健康管理 1

図4. 実習全般の自己評価

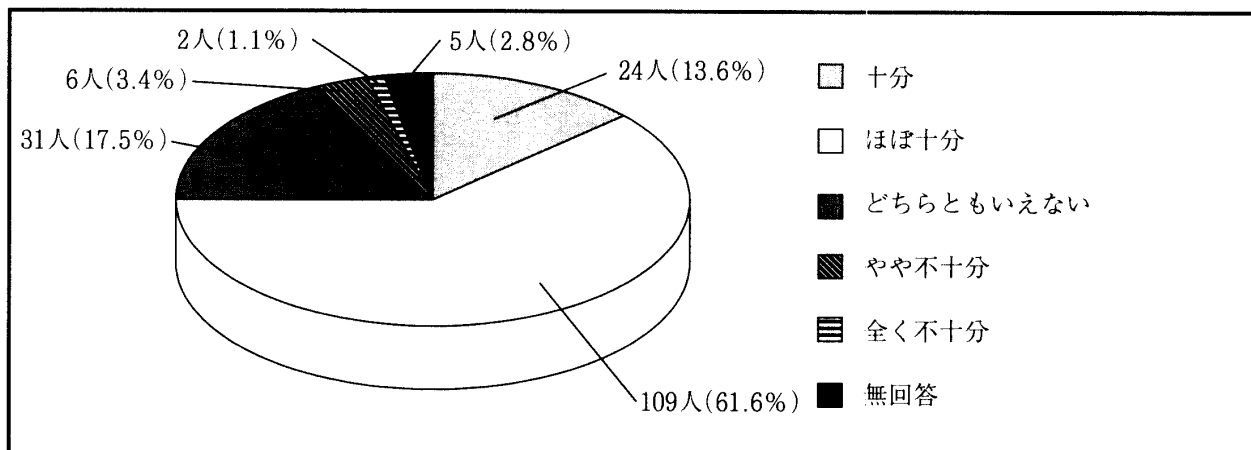
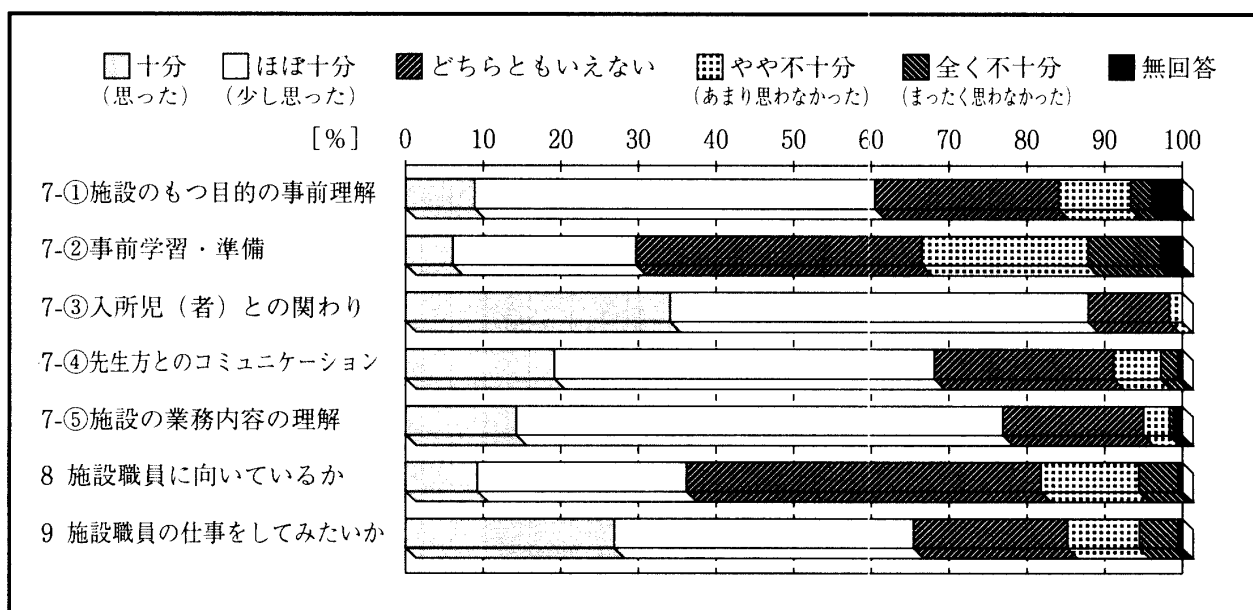


表7. 項目別自己評価

	十分 (思った)	ほぼ十分 (少し思った)	どちらともいえない	やや不十分 (あまり思わなかった)	全く不十分 (まったく思わなかった)	無回答
7-①施設のもつ目的の事前理解	16(8.9%)	94(51.6%)	43(23.6%)	17(9.3%)	5(2.7%)	7(3.9%)
7-②事前学習・準備	11(6.1%)	43(23.6%)	67(36.8%)	39(21.4%)	17(9.3%)	5(2.8%)
7-③入所児(者)との関わり	62(34.1%)	98(53.8%)	19(10.4%)	3(1.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
7-④先生方とのコミュニケーション	35(19.2%)	89(48.9%)	42(23.1%)	11(6.0%)	4(2.2%)	1(0.6%)
7-⑤施設の業務内容の理解	26(14.3%)	114(62.6%)	33(18.1%)	6(3.3%)	1(0.6%)	2(1.1%)
8 施設職員に向いているか	17(9.3%)	49(26.9%)	83(45.6%)	23(12.6%)	9(5.0%)	1(0.6%)
9 施設職員の仕事をしてみたいか	49(26.9%)	70(38.5%)	36(19.8%)	17(9.3%)	9(4.9%)	1(0.6%)

図5. 項目別自己評価



具体的記述－施設のもつ目的の事前理解

<理解してのぞんだ> 33

- 打ち合わせでいただいた資料，パンフレットに目を通して 14
- 施設長はじめ先生方の講義，オリエンテーションで 8
- こちらからすすんで先生方に聞いて 4
- 学校の授業，先生方の話から 4
- 先輩の残したレポートを借りて 2
- 先に実習を終えた友人に聞いて 1

<もっと理解してのぞむべきだった> 24

- 勉強不足だった，分からないままだった，調べていかなかった 8
- 何となくの知識しかなかった，もっと詳しく調べて行くべきだった 7
- 打ち合わせでいただいた資料，プリントを読んだだけで，もっと詳しく知っておくべきだった 3
- 分かっているつもりでも，分からないことがたくさんあった 2
- 打ち合わせでいただいた資料，プリントをもっと読んでおくべきだった 1
- 打ち合わせで，担当の先生から直接に詳しい話が聞けたらもっとよかった 1
- 先輩の残したレポート程度しか目を通さなかったのが残念だった 1
- 実習時期が急に変更になって，調べる時間がなかった 1

<あらためて理解することがあった> 13

- 実習をすすめることで理解できることも多かった 6
- 理解していたつもりでも実際には思うように動けなかった，考えて行動できなかった 4
- 実際に行ってみると，理解と違っていることもあった 3

具体的記述－役に立った事前学習や準備（内容）

<入所児（者）についての知識・理解> 22

- 障害，病気について 16
 - 障害，病気の種類，特徴，症状など 9
 - 障害，病気の特徴，症状と対応，援助など 7
- 入所児（者）一人ひとりの情報 6
 - 一人ひとりの情報と関わり方 6

<具体的な入所児（者）との関わりの準備> 14

- 遊びの準備 14
 - 手遊び，歌 7
 - 手作りおもちゃ 3
 - 折り紙，折り紙シアター 2

- スキンシップのある遊び

2

<施設について> 12

- 入所児（者）の活動，活動の目的，一日の流れなど 6
- 施設の種類，特徴など 4
- 実習した施設の事前に見た様子 2

<身の回りの準備> 6

- 活動，作業に適した着替えなど 4
- 常時携行するメモとペン 1
- 雑巾 1

<心の準備> 5

- 心構え，やる気 5

具体的記述－役に立った事前学習や準備（手段）

<学校で> 32

- 授業 12
- 先輩の話，先輩の残したレポート 11
- ガイダンスアワー「施設実習前指導」 8

<実習施設から> 23

- 打ち合わせ，オリエンテーション，講義など 14
- 打ち合わせでいただいた資料，プリント 9

<自分で考えて> 18

- 教科書を読み返した，本を読んだ 9
- 自主実習，ボランティア 5
- 先に実習を終えた人に話を聞いた 4

<その他> 2

- 幼稚園，保育所での実習経験 1
- 宿泊で一日早く行って観察できた 1

具体的記述—もっと事前学習や準備をしておけばよかったと思うもの

<入所児（者）についての知識・理解> 72

○障害，病気について 63	
• 障害，病気の特徴，症状と対応，援助など	26
• 障害，病気の特徴，症状など	25
• 障害，病気の対応，援助など	12
○入所児（者）一人ひとりの情報 9	
• 一人ひとりの障害と注意事項	3
• 子どもの個々の状況と対応	3
• 一人ひとりの名前	3

<施設についての知識・理解> 21

○施設の概要，施設に対する専門的知識など 12	
○入所児（者）の活動，一日の流れと職員の入所児（者）への関わりなど 6	
○実習した施設の目的，独自の方針など 3	

<具体的な入所児（者）との関わりの準備> 20

○遊びの準備 18	
• 研究保育，任されたときの遊び	9
• コミュニケーションを取るための遊び	9
○援助の準備（児童養護施設での学習指導） 2	

<身の回りの準備> 7

○活動，作業に適した着替えなど 6	
○目覚まし時計 1	

具体的記述—感想

<感動した・よかった・楽しかった> 106

○入所児（者）と関わられて，入所児（者）に助けられて 42	
• いろいろな入所児（者）と関わられて，たくさん関わられて，会話でコミュニケーションが取れて	17
• 入所児（者）に受け入れてもらえて	13
• 言葉が通じなくてもコミュニケーションが取れて，分かり合えて	7
• 大変だったが，入所児（者）に助けられて	5
○優しい雰囲気，あたたかい気持ちに迎えられ，送られ，覚えていてもらえて 15	
○貴重な体験だった，得難い体験だった，なくてはならない実習だった 13	
○入所児（者）の姿が 12	
• 純粹さ，素直さ，明るさ，優しさ，涙に触れて	8
• できる範囲で頑張っている姿，互いに助け合っている姿を見ることができて	4

○自分自身のためになった	8
• 自分のイメージを変えることができて	4
• これからの自分のために	4
○ほんとうによかった，とにかく楽しかった，不安だったが楽しかった	7
○先生方のお陰で	9
• 先生方の愛情，援助が素晴らしく，先生方がすごくて	6
• 先生方が優しく，先生方に恵まれて	3
<学んだ・分かった・気付いた>	93
○入所児（者）について	33
• 純粹さ，素直さ，優しさ，可愛らしさ	16
• 障害児（者）の能力，自立，頑張り	5
• 自分達と変わらないところ	5
• 健常児（者）とのよい意味での違い	5
• 障害の症状，入所児（者）の状況の単純でないところ	2
○入所児（者）への言葉かけ，関わり方，援助などについて	22
○イメージと違った，見方が変わった	20
• 予想と違って，施設は明るかった	13
• 入所児（者）は持っていたイメージと違った，入所児（者）に対する見方が変わった	7
○先生方の存在の大きさ，先生方と入所児（者）との信頼関係の大切さ	12
○施設の環境，雰囲気	5
○礼儀の大切さ	1
<考えた・考えさせられた>	43
○自分自身について	27
• 入所児（者）の姿に，自分の考え方を反省した，生き方を振り返った，あらためて考えた	11
• 入所児（者）の素直さに教えられた，学ぶことが多かった	9
• 入所児（者）の姿に励まされ，自分ももっと頑張らなければと思い直した	7
○施設，入所児（者）が置かれている状況，取り巻く社会環境について	9
○子どもたちの本当の姿について	5
○先生方の入所児（者）への対応について	2
<難しかった・戸惑った>	21
○先生方の指導，指示に戸惑った，先生方に言われたことがショックだった， もっと先生方とコミュニケーションを取りたかった	13
○子どもたちへの対応が大変だった，素直に言うことを聞いてくれないこともあった	7
○精神的にきつかった	1

〈もっと施設と関わりたい気持ちになった〉 8

- 機会があったらもう一度行きたい, ボランティアとして勉強したい, もっと関わっていたかった 7
- 就職の選択肢が増えた 1

V. 結果について

(1) 実習施設の選択, 決定に至る実習手続きについて

- 最も実習したい施設があったと回答している学生と実習したい施設がなかったと回答している学生の比率は, おおよそ, 7対3である。特に希望していた施設はなかったと回答している学生が約3割というのは, 特定の施設に希望者が集中して調整するのに苦慮している実習配当のことを考えると, 予想外に高い割合である。その具体的理由をみると, 「どこでも勉強になるから」といった積極的な理由もあるが, 「興味がなかったから」といった消極的な理由もある。施設実習に対する意欲が十分でないために, 特に希望していた施設はなかったと回答しているのであれば指導の必要がある。

- 実際の実習配当(図1)と特定の施設を希望していた(図2-①), 希望していた施設の種類があった(図2-②)を比較すると, 知的障害児施設, 重症心身障害児施設(病棟), 知的障害者更正施設, 知的障害者更正・授産施設で実際の受け入れ数より希望者数が少なく, 児童養護施設, 乳児院でより希望者数が多くなっている。

希望する理由についてみると, 「自宅から近いから」, 「子ども(乳幼児, 児童)がいる施設に行きたかったから」, 「障害児・障害者と関わりたいから」などが比較的多くなっている。希望する施設の種類と理由との関わりからみると, その種類の施設でなければならない理由として説得力のあるものは少ない。

少数ながら「未経験だから」, 「日頃機会がなく, 是非関わりたいから」といったよく知らないから是非実習したいという学生もいるが, 多数を占めているのは「子どもがいる施設に行きたかったから」, 「近いから」, 「行ったことがあるから」, 「知っているから」, 「話を聞いたから」といった身近に感じられるから実習したいという学生である。

どうやら, 児童福祉施設に関する知識・情報が乏しいために, 積極的に実習希望先を見つけられずにいるというのが実情のようである。

- 実習願で第1希望として提出した施設がそのまま実際の実習施設として配当された学生の割合は66.5%, 第2, 3希望にも配当されなかった学生は22.0%である。保育所実習では90%以上, 幼稚園実習では85%程度が第1希望の実習園に配当されていることを考えると, 改善されなければならない配当の状況であることは明らかである。しかしながら, 学生の希望に沿って実習施設を開拓することは難しい。現実的には, 実習施設の受け入れ状況に合わせて, 学生の興味・関心を引き出していくことが必要である。
- 実習願提出時の希望通りに実習先が配当されたか否かによって, 実習の自己評価に差違が生じるかどうかをみると, 「十分」「ほぼ十分」とプラス評価している割合が, 第1～3希望の施設に配当された学生では74.6%, まったく希望していない施設に配当された学生では82.5%である。保育所実習や幼稚園実習と同様に, 施設実習においても, 学生は実習手続き上の不満がどうあれ,

実習内容に満足であれば実習をプラス評価するということが確認された。

これらを考慮すると、施設実習願の提出に向けた実習指導オリエンテーションでは、これまでの実習手続きの説明、周知を主としたものから、施設実習の意味や目的の理解を促すとともに実習受け入れ施設に関わる資料や情報を提供し、施設実習に対する意欲を引き出して目的意識を高める内容にしなければならないことが分かる。たとえば、本年度は実習開始直前に行った専門教科担当教員による「児童福祉施設に関する講義」を実習願提出前のガイダンス・アワーに移して実施することなどが、有効な対策ではないかと考えられる。

(2) 実習前指導、実習施設との事前打ち合わせを含めた実習に向けた事前学習・準備について

- 事前の打ち合わせ（あいさつ）の実施状況は、表6、図3に示すとおりである。この中で、具体的記述欄に説明された内容から、学生の勝手な都合や判断で班全員が揃って事前の打ち合わせに施設訪問できなかったのは2班のみである。電話で打ち合わせた6班は、すべて実習施設から遠方を理由に「事前訪問は不要」と指示されたものである。都合で一人欠席した1班と都合で分かれて訪問した1班は、実習施設から指定された日時と本学専攻科インタビュー入試が重なったことによるものである。これは、保育所実習、幼稚園実習と比較しても良好な実施状況である。
- 項目別自己評価（図5）をみると、事前学習・準備に関わる「施設の持つ目的の事前理解」、事前学習・準備の評価は相対的に低くなっている。特に、「事前学習・準備」は、プラス評価「十分」「ほぼ十分」は29.7%であるのに対して、マイナス評価「やや不十分」「全く不十分」は30.7%である。実習全般の自己評価（図4）と比較しても、たいへん低い評価となっている。

これらについて、具体的な記述回答からみると、「施設の持つ目的の事前理解」では何々から理解していった、何々をもっと理解しておけばよかったといったような手段的な内容ばかりで、目的の内容そのものについては触れられていない。「十分」「ほぼ十分」のプラス評価は60.5%であるが、その数値に相応しい理解をもって実習にのぞんでいたかどうかには疑問が残る。追って、理解の内容についての検証が必要である。

同様に、「事前学習・準備」の「役に立った」手段では「学校の授業で」、「実習施設のオリエンテーションで」といった受け身的なものが、「自分で考えて」といった能動的なものより多くなっている。

- ガイダンス・アワーによって、本年度、新しく実習前指導の内容に組み込まれた「専門教科担当教員による講義」および「外部講師による講話」は、具体的な記述回答から、「施設の持つ目的の事前理解」、「事前学習・準備」に向けて有効に活用された様子がうかがえる。また、同じく具体的な記述回答から、カリキュラム改革で2年後期から2年前期に移行した「障害児保育」の授業は、「事前学習・準備」を促すとともに施設実習に対する目的意識の高揚に少なからぬよい影響を与えていることが認められる。

これらを考慮すると、学生が積極的に、自主的に事前学習・準備に向かうような実習前指導の一層の創意工夫が必要であることが認められる。同時に、施設実習に限らない、実習にも配慮したカリキュラム改革の視点と、ガイダンス・アワーを実習前後指導として計画する際の適時性への配慮も求められる。

(3) 実習に対する目標設定とその具体化について

- 回答者の全員に近い97.7%の学生が「明確な目標を持つてのぞんだ」としている。「明確な目標を持つてのぞまなかった」とする学生は僅かに4名(2.3%)である。これは、1998年11月実施の保育所実習の5名(3.0%)、1997年11月実施の保育所実習の2名(1.3%)と比較しても、十分に評価できる状況である。

さらに、目標の内容をみると、「入所児(者)との関わり方、援助について学ぶ」といった学習目標に加え、「積極的に取り組む、できることは何でも吸収する」、「責任を持って、考えながら行動する」といった態度や行動に関わる目標も相当数の学生が掲げている。

知識や情報が乏しいと認識する短期間の施設実習に対して、保育所実習や幼稚園実習以上の緊張感を持って実習にのぞんでいる姿勢の表れと思われる。

- 学生が設定している学習目標は、「学ぶ、理解する、知る」と「入所児(者)と関わる・援助する」に大きく分かれている。これは、理解してから関わるか、関わることで理解するかの違いはあるが、いずれも、入所児(者)を理解することに主眼がある。短期大学の2年間という限られた養成期間内に、もっとも力を入れて指導することは、子どもに何をどう教えるかといった保育知識・技術の伝授ではなく、子どもを正しく理解する力を育てることだと言われるように、まさしく、学生は、短期集中の施設実習において、一人ひとりの入所児(者)を理解して子ども(保育対象)を見極める力を学び取ることに集中してのぞんでいるようである。
- 実習全般に対する自己評価は、「十分」「ほぼ十分」のプラス評価を回答している学生が75.2%に達している。これは、これまでの調査研究の中で報告してきた保育所実習や幼稚園実習の評価と比較しても遜色のない数値である。この高い満足感や達成感は、入所児(者)理解に絞って設定されている目標と、項目別評価「入所児(者)との関わり」の「十分」「ほぼ十分」のプラス評価87.9%と一致している。多少甘い自己評価とも受け取れるが、学生なりに、自分で掲げた目標に照らして出された妥当な評価と考えたい。
- 項目別自己評価(図5)を「十分」「ほぼ十分」のプラス評価の高い順に並べてみると、次のようになる。併せて、保育所実習、幼稚園実習での自己評価(「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(2)」)から、同様の項目について並記する。

<施設実習での自己評価>

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 入所児(者)との関わり | |
| ② 施設の業務内容の理解 | |
| ③ 先生方とのコミュニケーション | ≡ ○施設職員の仕事をしてみたいか |
| ④ 施設のもつ目的の事前理解 | |
| ⑤ 事前学習・準備 | ≡ ○施設職員に向いているか |

<保育所実習、幼稚園実習での自己評価>

- | | |
|------------------|--------------|
| ① 子どもたちとの関わり | |
| ② 先生方とのコミュニケーション | |
| ③ 実習園(所)の保育方針の理解 | |
| ④ 事前学習 | ≡ ○保育者としての適性 |

保育所実習や幼稚園実習の自己評価とほぼ同様の評価傾向である。保育所実習や幼稚園実習に関して、実習園（所）に対してもアンケート調査を実施すると、学生の自己評価と異なる傾向がみられ、実習指導改善のポイントが見いだされた。施設実習に関しても、実習施設に対するアンケート調査が必要と思われる。特に、「先生方とのコミュニケーション」についての具体的な記述回答の中に、保育所実習や幼稚園実習ではみられなかった、実習指導担当の先生方と「コミュニケーションがうまく取れなかった」、「誤解された」、「指導内容に納得がいかない」といったことを、いささか厳しい調子で訴えている。これらの学生に対しては、クラス担任とも連絡を取り合い、聞き取り調査をするなどの、個々の学生に対応したアフター・ケアを行いたい。事例によっては、該当する実習施設に対して、慎重に、本学の連携における不備がなかったかどうかを検討する必要があるだろう。

施設職員に向いていないと考える割合が高いにも関わらず、施設職員の仕事をしてみたいと回答する学生が多い。実習を通じて、施設職員の仕事が大変であることを体験する一方で、やりがいと魅力も実感したようである。

(4) 施設実習の意味について

結果の最後に示した「具体的記述—感想」からみる。

- 「感動した、よかった、楽しかった」、「学んだ、分かった、気付いた」という内容のほとんどが、入所児（者）と入所児（者）の生活環境である施設についての理解が深まる過程のものである。保育所実習や幼稚園実習で多々みられた保育技術についての内容はほとんどみられない。いささか目先の技術や方法論に執着する傾向のあった保育所実習や幼稚園実習とは異なり、入所児（者）の理解に集中して実習を過ごした様子がうかがえる。保育者としては、専門的な技術も大切であるが、それは深い子ども理解、人間的理解に支えられて意味をもつ。しかしながら、目に見えて、結果の是非が確認できる保育技術に比べ、人間的理解は目にも見えず、確証も得られない。それが、簡単な保育技術では通用しない、また、それだけで勝負する必要もない障害児（者）や24時間体制の収容施設の子どもたちに出会って、正面から向き合う必要に迫られ、よって、入所児（者）である保育対象理解への集中に繋がったと思われる。それも、多大な感動を持ってである。ここに、施設実習の重要な意味があるのではないだろうか。そして、学生はその意味をしっかりと体験して、まったく「関わった児童たちが障害やさまざまな問題を担いながらも一人ひとり真剣にいきる姿に触れ、感動を覚え、施設に対する見方が変わったという体験はおのずと施設実習がもたらす重要な意義である」¹⁾と説明されるとおり、保育者を目指す学生として、人間として成長する糧としたようである。
- さらに、入所児（者）理解を、入所児（者）との関わりだけでなく、多様な関係性の中から理解を深めようとしている様子もうかがえる。大部分は、入所児（者）や先生方との関わりが中心ではあるが、施設の置かれている状況や入所児（者）と先生方との一様でない関係にも言及し、最終的には自分自身を見直すところまで発展している。たとえば、森上史朗は「それぞれの子ども達の発達歩みには個人差が大きいのですが、そのことが多様な子どもに接することによって、そうした理解が深まり、多少の発達の遅れがあっても、ゆとりを持って見ていることができようになります。しかし、もっとも重要なことは関係性の中での育ちが見えてくるということでしょう

う。つまり、その子の特性は、その子どもだけに帰属するものでなく、仲間からどう見られているか、集団にどう位置づいているか、あるいは自分のかかわり方そのものが、その子の発達に影響を及ぼしているということの関係性の認識が可能になってくるということです。とくに、その関係性の中心に自分があるということ、つまり“自分が見えてくる”ということが重要です。』²¹と保育者の経験の意味として述べている。学生は、森上史朗のいう“自分が見えてくる”とまではいかないが、若い学生らしい新鮮な驚きや発見から自分自身にも目を向けているのである。そこまでの気づきに至っている学生は多数ではないが、それでも、そのような少数ではあるが深い気づき、多様な見方を、施設実習終了後の早い時期に体験発表かつ意見交換する機会を設けるなどして、多くの学生の学びに育てることができないのだろうか。そうなれば、一層、施設実習の意味は膨らむことになる。実習指導担当者間で是非とも検討して、実現に移したいことである。

- 大きな収穫を得て、プラス評価の感想ばかりではない。前項の項目別自己評価「先生方とのコミュニケーション」でも触れたが、実習施設の先生方とのコミュニケーションが十分取れず疑問を持ったまま実習を終えている、あるいは入所児（者）への対応が難しく十分な達成感や満足感を得られなかった学生もいる。これらの学生には、適切な個人指導と保育実習Ⅲの受講を促すなどの対応が必要であろう。そのためには、アンケート調査はそれぞれのクラス担任が目をとおして、個別指導が必要と認められる学生の洗い出しにも活用すべきである。

施設実習を経験して、心に残ったこと、感じたこと、気付いたこと、訴えたいことなどを具体的に書いて下さい、というアンケートの質問に対して、回答欄をはみ出して余白から回答用紙の裏面にまで、あふれ出るように、その場面、その思いが書き綴られている。それだけでも、学生が施設実習から得たものの大きさ、施設実習の価値が十二分に感じられ、施設実習の存在意味が納得できる。集計のために「感想」として短い文章に集約して、一人ひとりの学生が綴った感動を伝えられないことを、たいへん残念に思う。アンケート調査は、分析・検討の対象にするだけでなく、学生が互いに学び合う材料としても活用していきたい。

IV. まとめ

施設実習における学生の自己評価の分析、検討をしたところ、以下のような実習指導上の改善の視点が得られた。

- 施設実習願の提出に向けた実習指導オリエンテーションは、施設実習の意味や目的の理解を促し、受け入れ施設の資料や情報を提供して、実習意欲を引き出して目的意識を高める内容とすべきである。
- 専門教科担当教員による「児童福祉施設に関する講義」の実施時期をもっと早期、施設実習願提出前の実習施設選択に合わせるべきである。
- 施設実習に向けて学生が自主的、積極的に事前学習・準備を行えるような、実習前指導のあり方を創意工夫する。
- カリキュラム改革に実習指導の視点をできる限り盛り込む。
- 実習前後指導をガイダンス・アワーとして計画・実施する際には、実習と連動した適時性が求

められる。

- 総体としての学生は施設実習の意味を十分に体験したと判断されるが、十分な達成感や満足感を得られなかった事後指導の必要な学生も僅かながら散見される。
- 学生の施設実習における貴重な思いや学びを一層育てるためには、保育所実習や幼稚園実習同様、あるいはそれ以上に、実習後指導として、体験発表・意見交換の場を設定する必要がある。

付記

アンケート回答の中で、「障害」を意図的に「障碍」と記述している学生が数名みられた。この「障碍」を用いることについて、文献や資料を当たって十分に吟味していないので、今回のアンケート集計においては、従来の「障害」と同義に処理をした。今後、学生の意図が反映できるように、その用法を詳らかにしたいと考える。たとえば、「障碍」を用いている津守真は、「保育者の地平」(「発達」第83号，[特集]保育者の成長と専門性)の注で「最近私は、障碍という字を用いている。「碍」は妨げの石という意味である。目から石を取り除けば障碍でなくなる。「障害児」という従来の用語を使う場合には括弧に入れて用いた。」と断っている。

アンケート作成の段階で、社会福祉専門の元木助教授にご助言をいただいた。感謝申しあげたい。しかしながら、集計作業に時間を取られ、肝心の分析、検討に当たってご意見ををいただく余裕がなかった。さらに調査結果を蓄積した際には、ご意見をいただき検討を深めたいと考える。

注

- ¹⁾ 参考文献1. 43頁
²⁾ 参考文献3. 71頁

参考文献

1. 「教育・保育・施設実習書」二階堂邦子他，建帛社，1999
2. 「保育原理」森上史朗，高杉自子他，ミネルヴァ書房，1989
3. 「[特集]保育者の成長と専門性」森上史朗他，発達第83号，ミネルヴァ書房，2000
4. 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(1)」山田康彦，林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第22号，1996
5. 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(2)」林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第23号，1997
6. 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(3)」濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第26号，2000

[2000年11月30日 受理]

<質問紙>

保育実習Ⅰ（保育所を除く福祉施設）についてのアンケート

これは施設実習の現状について把握するために実施する調査です。実習に対する皆さんの思いや意見を正しく受けとめたいと考えますので、できるだけ詳しく回答してください。平成12年10月 保育科

保育科 クラス（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

1 実習した福祉施設（以下、実習施設と省略）の名称を書き、その種類をア～ケで答えてください。

名称 _____ 種類 _____

<実習施設の種類>

- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| ア. 児童養護施設 | イ. 知的障害児施設 | ウ. 知的障害児通園施設 |
| エ. 重症心身障害児施設（病棟） | オ. 肢体不自由児施設 | カ. 児童自立支援施設 |
| キ. 乳児院 | ク. 知的障害者更正施設 | ケ. 知的障害者授産施設 |

2 最も実習したいと希望していた施設、希望していた理由を書いてください。

- 特定の施設を希望していた → 名称を書いてください。 _____
- 希望していた施設の種類があった → 具体的にア～ケで答えてください。 _____
- 特に希望していた施設はなかった

理由 _____

3 実習施設は、実習願を提出したときに実習したいと希望していた施設でしたか。

- 第1希望の施設だった 第1～3希望の施設ではなかった
- 第2希望の施設だった わからない（はっきり覚えていない）
- 第3希望の施設だった

4 実習施設に対する事前の打ち合わせ（あいさつ）はどのようにしましたか。

- 全員（ 人）そろって訪問して打ち合わせを行った
- 代表者（氏名： ）が訪問して打ち合わせを行った
- 訪問しないで、電話で打ち合わせを行った
- その他
- 具体的に書いてください _____

5 実習にあたって、どのような目標を持ってのぞみましたか。

- 目標を持ってのぞんだ → 具体的に書いてください。

- 目標を持ってのぞまなかった

6 5のような目標を持ってのぞんだ自分の実習を自己評価してください。

- 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

7 6でそのように思われた理由として、以下の項目について答えてください。

（項目ごとに、特に気付いたことや意見等があれば、具体的に書き添えてください。）

① 実習施設がどのような目的をもった施設であるかを十分に理解して実習にのぞみましたか。

- 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

② 事前学習や準備は十分できましたか。

十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

→ どのような事前学習や準備が実習の役に立ちましたか。具体的に書いてください。

→ もっと事前学習や準備をしておけばよかったと思うものは何ですか。具体的に書いてください。

③ 入所児（者）とうまく関われましたか。

十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

④ 実習施設の先生方とうまくコミュニケーションを取れましたか。

十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑤ 実習施設の業務内容について十分に理解できましたか。

十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

8 施設実習を経験して、自分が福祉施設（保育所以外）の職員に向いていると思いましたが。

思った 少し思った どちらともいえない あまり思わなかった まったく思わなかった

9 施設実習を経験して、福祉施設（保育所以外）の職員として仕事をしてみたいと思いましたが。

思った 少し思った どちらともいえない あまり思わなかった まったく思わなかった

10 施設実習を経験して、心に残ったこと、感じたこと、気付いたこと、訴えたいことなどを具体的に書いてください。